

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 15 日現在

機関番号：34440 研究種目：若手研究（B）
 研究期間：2008～2012
 課題番号：20730388
 研究課題名（和文） 障害者の自立生活を支える環境整備のための福祉教育
 : DETによるエンパワメント過程
 研究課題名（英文） Social Work Education and Disabled People's Independent Living
 : Empowerment by Disability Equality Training
 研究代表者
 三島 亜紀子（MISHIMA AKIKO）
 東大阪大学・こども学部・教授
 研究者番号：30352545

研究成果の概要（和文）：

DET（障害平等研修）は障害者と関わる人々が、社会の差別的な慣習の本質を理解することを目的に、障害者本人の手によって計画・立案されるものである。以下は本研究の具体的な目的で、出版準備中・執筆中のものもあるが、おおむね達成された。

(1) 実践の現場を調査することによって、DETの手法を明らかにする。

(2) エンパワメントを推進するDETを実施するため、実践を重ねることによって推敲し、実用的なマニュアルを作成する。

(3) DETの思想的・政治的背景を明らかにする。

研究成果の概要（英文）：

Disability Equality Training (DET) was originally developed by disabled people in the United Kingdom and has been implemented since the late 1970s as a means to promote an understanding of disability from this Social Model perspective.

The aims of this study are as followings:

(1) To explicit how to provide the DET.

(2) To create useful manuals to provide DET to empower disabled/nondisabled people.

(3) To consider DET theoretically and politically.

Most of these aims are accomplished, but some of them are still in print or writing.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	700,000	210,000	910,000
2009年度	305,867	91,760	397,267
2010年度	294,133	88,239	382,372
2011年度	700,000	210,000	910,000
2012年度	700,000	210,000	910,000
総計	2,700,000	809,999	3,509,999

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学

キーワード：障害者・自立生活・福祉教育・DET・エンパワメント

1. 研究開始当初の背景

本研究は、大学院時代の研究、及び科学研究費をもとに行った研究の成果である『社会

福祉の<科学>性』等を踏まえ、さらに次の段階に進むものである。これらのソーシャルワークの理論、またその本質を探る理論的・歴史的研究を行う上で、かねてから関心を持ち続けてきたのは障害者福祉の領域であった。これについては、いくつかの論文の執筆や翻訳書の出版、障害学会の設立・運営に携わることを通じて世に問うてきた。

また、2003年頃から福祉の理念にもとづく教育手法に関する研究（参加型学習に関する研究）に着手し、学会発表や論文として公表してきた。福祉教育に関心を持つようになったきっかけは、東北の地方都市への赴任経験である。地方に住む人々の暖かさや人の良さ、面倒見の良さに感服する一方で、福祉の利用者に対するある種の偏見に驚かされた。この時、福祉教育の必要性を強く認識し、今に至っている。

このように交付を受けはじめた2008年以前から私はDETに関する実践・研究を進めてきた。しかしながら当時、日本ではこれについてあまり深く議論されておらず、気軽に参照できる日本語で書かれた関連本も限られているという現状であった。

現在、日本では障害者差別禁止法立法に向けて準備が整いつつある。イギリスでは障害者差別禁止法（1995）の成立とともにDETが発展してきたと言われている。法の精神を着実かつ効果的に具体的事例に当てはめ問題解決に取り組んできたイギリスにおけるDET関連の蓄積は、障害者に関わる法律改正後の日本の地域社会にとって一助となるだろう。

2. 研究の目的

DETとは、Disability Equality Trainingの略記で、障害平等研修などと訳されている。DETは障害者と関わる人々が、社会の差別的な慣習の本質を理解し、何をなすべきであるのかを明らかにすることを目的に、障害者本人の手によって計画・立案されるものである。講義に加え事例検討やロールプレイ、行動計画作成などで構成され、グループワークを中心にした、いわゆる参加型のトレーニングが基本となっている。障害者当人の手によって発展してきた。

いっぽう障害者をはじめ社会的弱者が地域生活を営むための社会環境づくりとして、福祉教育の試みが多様な形でなされてきた。地域住民・生徒・学生などに対する参加型のワークショップなどもそれに含まれる。本研究は、こうした試みの蓄積を踏まえ、障害者の自立生活を支える環境を整えることを視野にDETに関する認識を深め障害者のエンパワメントを促進することを目的と

する。

以下は本研究の具体的な目的である。

- (1)実践の現場を調査することによって、DETの手法を明らかにする。
- (2)エンパワメントを推進するDETを実施するため、実践を重ねることによって推敲し、実用的なマニュアルを作成する。
- (3)DETの思想的・政治的背景を明らかにする。

3. 研究の方法

イギリスのDETの実態を把握するために現地に赴き、調査を行う。またイギリスやアメリカの障害者関連団体が販売するDVDやCDなどの教材なども収集した。これらの資料や調査で得たデータの検証をおこなう。

イギリスで実践されているDETには、日本人になじまないプログラムもある。このため、DETの価値や思想を尊重しつつ、日本人が親しみやすいプログラム・アクティビティの開発を進める。資料や調査から得た分析をもとに、日本向けに再構成し、実践・研究をおこない、これを論文や著書、学会報告などの形で公表する。

4. 研究成果

上記「2. 研究の目的」で述べた3つの目的に即して述べる。

「(1)実践の現場を調査することによって、DETの手法を明らかにする」の目的に関してはイギリスでDETを実践している個人や団体への聞き取り調査をおこない、論文にまとめた。またイギリスやアメリカの障害者関連団体が販売するDVDやCD、パワーポイントなどにまとめられた教材を収集した。

「(2)エンパワメントを推進するDETを実施するため、実践を重ねることによって推敲し、実用的なマニュアルを作成する」という目的に関して。イギリスで実践されているDETには、日本人の集団に対しておこなった場合、失敗が予想されるようなプログラムもあるため、DETの価値や思想を損なわないよう、日本人が親しみやすいプログラム・アクティビティの開発を進めてきた。その試みの一つが絵本の出版である。今年度中に2冊目を発行する予定であるが、全3冊の刊行を目指している。

参加型のワークショップのあり方についても学びをすすめてきた。さまざまな団体が提供するワークショップに参加したり、授業のなかで実際におこなったりと研鑽を積ん

できた。こうしたことを踏まえた、参加型のワークショップに特化したホームページの運営や書籍の出版計画がある。

最後の「(3)DET の思想的・政治的背景を明らかにする」目的に関して、これは、(1)や(2)の研究を進めるなかで明らかにする予定であった。これについて考察はしているものの、まだ論文や図書の形で成果を出すことはできていない。現在、ソーシャルワークの理論とソーシャルワーカーの教育をテーマにした博士論文執筆の計画がある。この枠組みの中で、DET はソーシャルワーカー教育に大きな示唆を与えるものとして、その思想的・政治的背景について論じていく予定である。

最終年度に当たる平成 24 年には、イギリスに赴き、経験豊富な二人の DET トレーナーから実際に DET を受けるなど貴重な体験をした。また、資料も収集した。しかしながら、これらのデータはまだ公表しておらず、現在準備中である。また、研究目的の(3)にあたる研究の一部を英語で発信するべく翻訳作業を依頼した。現在、学会誌への投稿に向けて準備中である。

いっぽうで研究を進めていくうち、当初想定していなかった展開が見られた。たとえば教材としての絵本の出版がある。また絵本の監修者である平下耕三氏が代表を務める大阪の自立生活センター「夢宙センター」に「劇団夢屋」（研究代表者は劇化や上演には関与せず）が結成され同絵本の劇を上演するなど広がりがみられた。

また、イギリスにおける調査を通じて DET が障害者にとっての就業の機会になっている実態を目の当たりにし、そうした可能性を日本で追求することが真のエンパワメントにつながるのではないかと考えるようになった。

こうしたなか、性急に他のアジアの国々における DET の開発・実施に踏み切るよりも、日本における DET のアクティビティ・プログラムの開発、日本の障害者が DET を担う際に必要とされるであろう教材のモデル作成など、支援体制作りに貢献する方向に進むほうがいいのではと思いついた。

したがって、当初の予定にあった、DET の研究で得られた知見をもとにアジアで活用する DET の開発・実施という計画は達成されなかった。

今後とも、まずは日本における普及を目標に計画を進めていきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

- ① 小山聡子・三島亜紀子・松岡克尚・松田博幸、障害学とソーシャルワーク、障害学研究、7号、46-51、2011年、査読無
- ② 三島亜紀子、障害学とソーシャルワークの交流から生まれるもの、障害学研究、7号、31-36、2011年、査読無
- ③ 三島亜紀子、障害学と社会福祉領域をつなぐ、障害学研究、7号、13-17、2011年、査読無
- ④ 三島亜紀子、障害平等研修 (DET: Disability Equality Training) と日本の福祉教育への示唆—その理念と特長、東大阪大学・東大阪大学短期大学部教育研究紀要、7号、1-8、2009年、査読無
- ⑤ 三島亜紀子、障害平等研修 (DET: Disability Equality Training) と日本の福祉教育への示唆—イギリスにおける実践の事例、東大阪大学・東大阪大学短期大学部教育研究紀要、7号、9-17、2009年、査読無

[学会発表] (計 4 件)

- ① 三島亜紀子、障害者の自立生活を支える環境整備のための福祉教育—社会起業としての障害平等研修、日本社会福祉学会第 60 回秋季大会、平成 24 年 10 月 21 日、関西学院大学
- ② 三島亜紀子、障害平等研修、日本質的心理学会大会外研究会、平成 23 年 2 月 5 日、京都文教大学
- ③ 三島亜紀子、障害平等研修の実際—イギリスにおける個人や団体の取り組みを例に、日本社会福祉学会第 57 回大会、平成 21 年 10 月 11 日、法政大学
- ④ 三島亜紀子、障害学とソーシャルワーク、障害学会第五回大会学会シンポジウム 2、平成 20 年 10 月 26 日、熊本学園大学

[図書] (計 4 件)

- ① 三島亜紀子、明石書店、「障害者ソーシャルワークの提案する専門家像—フレックスナーの専門職論の呪縛から離れて」横須賀俊司・松岡克尚編著『障害者ソーシャルワークへのアプローチ—その構築と実践におけるジレンマ』2011年、93-132頁
- ② 平下耕三監修・三島亜紀子 (文)・みしまえつこ (絵)、生活書院、妖怪バリアーをやっつける!—きりふだは、障害の社会モデル、53頁、2010年

執筆が終了し、出版準備中の図書（教材）
2件

- ① 倉本智明監修・三島亜紀子（文）・みしまえつこ（絵）、生活書院、高原列車にのって、2013年出版予定
- ② 三島亜紀子（文）・みしまえつこ（絵）、生活書院、すずめのがっこう、2013年出版予定

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://sites.google.com/site/detsyougai/home>

6. 研究組織

(1) 研究代表者
()

研究者番号：

(2) 研究分担者
()

研究者番号：

(3) 連携研究者
()

研究者番号：